

---

# 宇和島市教育委員会会議録

---

平成 28 年 12 月定例会

平成 28 年 12 月 16 日開催

宇和島市教育委員会

# 宇和島市教育委員会 平成 28 年 12 月定例会 会議録

1. 開会日時 平成 28 年 12 月 16 日（金）16 時 00 分～

2. 場 所 宇和島市役所本庁 701 会議室

3. 出席者 教育長 織田 吉和 委 員 高山 俊治 委 員 廣瀬 孝子  
委 員 木下 充卓 委 員 弓削 由美子

4. 欠席者 なし

5. 会議に出席した公務員の職氏名

教育部長	上田 益也	教育総務課長	横山 泰司
学校教育課長	野田 克己	生涯学習課長	寺尾 利弘
中央図書館長	毛利 功	吉田図書館長	松下 秀人
人権啓発課長	山崎 崇	文化・スポーツ課長	松本 隆夫
伊達博物館長	本田 耕一		
教育総務課課長補佐（吉田教育係）		藤本 浩雄	
三間教育係係長	末光 優子		
（事務局）			
教育総務課課長補佐兼総務係長		土居 弘	
教育総務課主任	中井 公子		

6. 付議事件

報告第 16 号 専決処分した事件の承認について

平成 28 年度教育費 12 月補正予算の要求について

報告第 17 号 専決処分した事件の承認について

宇和島市立公民館運営審議会委員の解嘱及び委嘱について

7. 会議概要

(1) 開会宣言（午後 4 時 00 分）

◎教育長

ただいまから、教育委員会 12 月定例会を開会いたします。

それでは、会議に先立ちまして、一言ごあいさつ申し上げます。教育委員さんは先ほどの総合教育会議に引き続きましての会ですがよろしくお願ひいたします。先ほど少し触れたのですけれども、月曜日、火曜日と議会がありまして、そこに 1 日目は宇和島東高の商業科 2 年生 80 人くら

いが来ておりましたし、2日目も午前中に東高の1クラス40名と午後には水産高校の女子生徒が4名来ておりましたが、そういうふうには高校生が傍聴してくれるというのはある意味で嬉しいことで、そして引率された先生からも、多少1日目に参加した生徒の態度が下を向いていたということで気になったのでしょうか、注意をすると素直に聞いて2日目の子どもたちはしっかりと話を聞いていましたし、やはり生徒のつぶやきの中に、例えばエアコンをつけるにしても議会を通して市長あるいは議員さんが協議をして進めていくんだということ等々勉強になったということを引き率の先生方から聞きました。18歳の選挙も始まってきておりますし、市内の他の学校の生徒たちも傍聴してくれると我々も良い意味で緊張感をもって会を進めることができるので嬉しいことだと思いました。以上です。

## (2) 教育長報告

### ◎教育長

続きまして、教育長報告に移ります。資料の1、2ページを御覧ください。11月1日、三間町小中学校連合音楽会に途中からでしたが行かせていただきました。

2日、吉田町5小学校の校長との協議をしたのですが、各5小学校毎にしっかり保護者の方、あるいはこれから小学校に入る予定の保護者の方からも声を、あるいは思いを引き出してくださいというようなことで、多少時間もかかりましたが、そういう会を持つように教育長室で5人の校長に全体的に指示をしたところです。

3日、市内の中学校で文化祭がありまして、城東中と城南中だけしか見えなかったんですけども、学級毎のコーラスで、どの学級の生徒も真面目にといいますか、そういう形でコーラスをしていたことが印象に残りました。あとは時間の都合でコーラスが終わっていた学校もありましたが回らせていただきました。

5日、松平定知氏の講演会がコスモスホール三間でありますが、ある程度年配の方が中心でありましたけれども、たくさんの方が来られておりました。

9日、津島中学校の新校舎を視察して、素晴らしい校舎ができておりますけれども見させていただきました。

12日、レスリングリハーサル大会、全日本の大学レスリング選手権大会という名目での大会がありまして、全国の大学生の精鋭が取り組んでいる様子を見て大変感動しました。

17日、凶上訓練がありまして、小中学校等が避難所になることもあるので、今後の学校等における避難所の在り方についてさらに検討していかなければいけないと思いました。

22日、吉田小学校で文科省の指定を受けた人権教育研究の発表会がありました。ここで少し私が気になったというか思ったのが、3年生が総合の学習の時間に吉田町のお練りの事を色々調べて発表しておりましたが、後で先生に聞くと、今吉田町もお練りについて国の指定を受けるように取り組んでおりますが、意外と11月3日に地元の子どもたちもお練りの様子を見に行く子どもたちも少ないとか、その日はスポ少で外に出て行ったり、保護者も色々な事で外に出て行って実際に見ている子どもが少ないというようなことがあったりしまして、ある部分考えていかなければ

ればいけないのかなと思ったりしました。

25日、宇和島市防災教育推進連絡協議会があり、防災について、先ほど避難所のことに触れましたけれども、各小中学校からも教頭先生くらいの方に来ていただいて避難所運営の在り方などを協議しました。

以上で報告を終わります。質問、意見等ありませんか。

— 委員からは特に意見なし。 —

### (3) 付議事件

#### ◎教育長

次に議事に入ります。本日の議案ですが、報告第16号の12月補正予算要求については予算が公表されていないことから、報告第17号は人事案件であることから、本日の両議案ともに非公開で審議したいと思いますが、異議はありませんか。

#### ◎全員

異議なし。

#### ◎教育長

異議がないようですので、非公開で審議します。ここからは非公開の審議に入ります。

#### ◎教育長

報告第16号を上程する。

報告第16号

専決処分した事件の承認について

平成28年度教育費12月補正予算の要求について

#### ◎教育長

説明を求める。

#### ○教育総務課長、生涯学習課長、文化・スポーツ課長

平成28年度教育費12月補正予算の要求に関する報告事件を説明する。

#### ◎教育長

報告事件について諮る。

#### ◎全委員

異議ない旨答える。

#### ◎教育長

報告のとおり承認する旨宣する。

#### ◎教育長

報告第17号を上程する。

報告第17号

専決処分した事件の承認について

宇和島市立公民館運営審議会委員の解嘱及び委嘱について

◎教育長

説明を求める。

○生涯学習課長

宇和島市立公民館運営審議会委員の解嘱及び委嘱についての報告事件を説明する。

◎教育長

報告事件について諮る。

◎全委員

異議ない旨答える。

◎教育長

報告のとおり承認する旨宣する。

◎教育長

それでは、非公開案件の審議が終了したので、会議を公開します。

以上で、本日予定の議事はすべて終了しました

(4)その他

◎教育長

他に意見などありませんか。

○教育部長

教育長。先ほどの総合教育会議の中で市長からしきりに小学校の英語教育で30年度という話が出ていたと思います。その資料を何かないかと思い探してコピーしてきましたが、その資料を御覧ください。私も実は十分に認識していない部分もあるんですけども、さらっと説明させていただき、後で野田課長に補足をお願いしたいと思います。これは御承知の方もあろうかと思いますが、英語教育改革の背景というのがありまして、グローバル化が進んでいくという中で日本の子どもたち、私たちもそうですが、英語力が非常に弱いということもあって、国のほうが動いていった経緯があります。学習指導要領を受けた進展も見られるんですけども2020年には東京オリンピック・パラリンピックを迎えるということもあって、その辺もきっかけとして新たな英語教育改革を順次実施していくということが求められています。この経緯につきましては、まず国のほうに教育再生実行会議というのがあります。これは第2次安倍内閣の時に設置された会議でありまして、以前も御紹介したと思うんですけども、この中でも学校教育に限らず教育に関する再生実行会議ということで議論がされておりますが、特にグローバル化に対応した小学校の英語教育の学習の早期化ということが取り上げられて、それを受けてですね、文科省のほうに教育振興基本計画の中に第2期ですけども、盛り込んだということがあります。具体的にいつからどのようになるのかというのが皆さんのお手元に配布してある資料となるのですが、よくいうPDCAですけども、Planのところは飛ばします。Do&Checkのところに①から⑨まであります。英語教育の強化地域拠点事業から始まりまして、教員養成の抜本改善、最終的には教育の採用改善であったり、外部人材の活用ということがあります。そして新たな英語教育のための

現職研修・採用・養成の行程として真ん中に年度がありますが、28年度からいきますと、学習指導要領の改定がありまして、30年度には次期指導要領について段階的に先行実施ができるということがあります。本来2020年度の東京オリンピックの時、32年度に小学校が全面実施されるということがあるんですけども、教育長も説明しましたように、こういう形の場合は前倒しをしてやりなさいというのが常であります。30年度には先行実施をしていって、こういうような形で進めていくと、一番は職員の研修・採用・養成というのが求められているようです。学校現場の先生方は色々なことがありながら英語力を高めていくというようなこともありますので、正直言って私の年代ではなかなかついていけないなと思いつつ大変だなと思っております。裏面を御覧ください。グローバル化に対応した英語教育改革実施計画というのがあります。これが、左側が小学校の数、およそ全国で2万あまりの小学校がありますが、中段、グラフでいきますと1万と5千のところにありますが、ずっと赤い印が出ておりますけれども、2016年度、平成28年度はこのように動いているんだというようなことで見てください。2020年度には真っ赤になってますが、ここからは英語教育が始まると。段階的に進んでいく部分もありますし、先行して先進的な小学校でモデル的に実施していくというような方法もあるかと思えますし、詳しいところは今後文科省のほうから予算を取りつつ、やる気のあるところと言いますか、先駆的なところは取り上げていかれるのであろうと見ております。特に一番上の小学校の英語教材ですが、まだまだこれは作成中なんだろうと思えます。そして教科書の検定が30年度には行われまして、採択が平成31年度です。32年度には教科書の配布ということになりますので、こういう形で進められるようです。御承知のように市内の小中学校については、ALTさん等が入りましてですね、色々な形で英語教育をしていますが、御覧のとおり、教科書をもって学科化されますので、この辺については今の算数、理科、社会と同じような扱いになってくると、副読本なんかではすまないということになるかと思えます。言い換えますと、それだけ先生方に学習指導要領に基づいた教育が求められるということになると思えます。学習指導要領は非常に分厚い本なので、私も全部目を通したわけではないんですけども、この辺になると私も苦手なところなので野田課長に補足をお願いいたします。

#### ○学校教育課長

教育長。学校教育課です。まず2ページ目のところで、生徒の英語力、目指すところはこままでを国は目指すんだというところ、上のほうになるんですが、中学校卒業段階では英検3級程度以上が50%の子どもにはこままでをつけさせたいと、高等学校については省略をします。問題は我々としたら教育の英語力、英語教員は英検の準1級、TOEFL IBT80点程度以上を目指す、これを中学校教員では50%を目指す、ちなみに宇和島市ではこれをクリアしている英語教員が20%該当しております。県としても土曜日に段階的な研修を松山のほうで行いながら検定試験を受けることができますという形で呼びかけているところではあります。だからまずは学校教育課としても教員の英語力向上ということについては市で単独で行うことはなかなかできませんが、そういった形の便宜を図れるように学校長と連携を取りながら、英語の先生が準1級が取れるような形でサポートしていきたいと考えております。同様に小学校の英語の教科化が始まり

ますので、各校一人の中核教員の専門性向上ということがあります。まず英語の前に道徳の教科化がありますので、これについても道徳推進教師というものが決められ、その者が集まって研修が県で行われるというような形がありますので、この英語についても同様のものが県で行われ、その補足を市のほうでしていく必要があるのかなというように現在は考えています。真ん中下のタイムスケジュールに30年度からは先行実施ができますよというようなことが示されています。これはやれますよということなので例えば3年生からの英語必修化ということでは、教科書等は使わずに数字による評価はできないんだけど必ずそれについても英語活動として行ってはいきます。5年生は先ほど少し触れましたが、教科化ということになりますので検定教科書を用いて通知表でも数字等での評価が求められるのではないかなと考えてはおります。ですから、その小学校教員の中学英語免許を推進するということが書いてありますが、現在も教員採用試験の時には英語力がこれくらいありますよということが加点材料になるということが県のホームページでも公表されているとおり、英語力の高い教師を愛媛県としても求めていることだと思います。3ページをお開きください。ここに学習指導要領というものがあって、そしてこういった形で改定が進み、まさにオリンピックの年から全面実施ということになるんですが、このCSというのはコース・オブ・スタディ、学習指導要領のことですので、特別なことはありません。CSの改定というのは学習指導要領の改定という形で理解いただくと助かります。現在も明倫小学校に1人英語の加配教員を頂いて小学校の外国語活動の充実についての研修を校内で進めているところではあるんですが、今度小学校の教員を集めてこういった活動が次の外国語活動から英語教育につながるのではないかなという形で、来年度以降小学校の先生を対象に市の教育委員会としての研修を今は考えているところです。そういった形で段階的に実施をしていながら小学校は32年度から、中学校は33年度から全面実施という形で新しい学習指導要領に基づいた活動が推進されるようになります。その時にはまさに10年に1度という形でそういった切り替えがあるんですが、このようなことが英語教育でも行われ、並行して少し先ほどの総合教育会議でも触れましたがICTについてもその年度をちょうど境にして新しく大きな流れの中で進めていくということを御理解いただけますと一番分かりやすいのかなと思います。私のほうからは以上です。

#### ○教育部長

もう少し補足させていただきます。文科省の平成28年度の予算額ですが、今お示ししている分については今年の2月に文科省が作成したものです。それを受けて7億4千万円余りをですね国がこの英語教育についてですね初等中等教育の推進ということで予算を組んでおります。来年度については情報を得てないので分かりませんが、おそらくそういうような形でこの辺に予算を投入していくんだろうと思います。外国人指導助手を各自治体にですね導入されるんだと思いますが、なかなか需用も多いものですから田舎の町にどこまで来るのかという心配もあるのですが、その辺は先駆的な事例を見ながら宇和島市の教育委員会としても取り組んでいく必要があると思います。それに加えてですね、小学校の英語教育が進むということになれば当然中学校、高校もあり得るんですけれども、教育委員会全体として考えた時には生涯学習の一環として公民館であったりとかですね、文化・スポーツ課がすでに実践していますが英語スピーチコンテスト

であったりとか、人権の中でもですね外国人差別とかヘイトスピーチであったりとかもありますので、総合的な取り組みと言うのがいずれは求められるのではないかと思いますので、そういうところは情報を察知しながら我々としても取り組んでいく必要があると思っております。少し脱線しましたけれども、こういうことがあるんだということを皆さんに知っていただければと思います。情報提供しました。以上です。

◎教育長

今、2人から説明がありましたが、ここの部分が分かりにくいとか、御質問とかありませんか。

○教育部長

野田課長、学校の先生方が自主的にALTの皆さんと英語学習をしていることについて紹介してみてもどうか。

○学校教育課長

分かりました。夏休みを中心にして、小学校の教員を中心に学校教育課に勤務している外国人指導助手を含めて外国語活動の在り方についての研修会をもったりとか、あるいはその教員が勤めている学校で大人を対象に模擬授業をして、その中でより良い外国語活動の在り方についての実践力を高めるという感じのことを7月、8月の中で数回、年により異なりますが、指導力アップということで教員の希望者を集めて実施しております。以上です。

◎教育長

いずれにしても点数がつくというか、成績がつくという英語科が小学校5年生から始まるというのはある意味では画期的なことだろうと思うし、それだけのものが今これからの時代を生きる子どもたちに求められているということですね。今、5、6年生がしている活動が3、4年生に降りてきて、3年生くらいから遊びの要素もあるんですが外国語活動として入ってくるということで御理解いただいたらと思います。

◎高山委員

英会話ができるようなことを重点に置いて学習指導要領はできてくるのですか。

○学校教育課長

一概にそうとは言えないと思います。少なくとも小学校の外国語活動では書くことはNGということになっていますので、そういうコミュニケーションの一環として外国語活動というものをまずは入れよう、英語を外国語を楽しいものとして中学校へ送り出そうという要素があると思っておりますので、でもやはり今度教科化ということになってくると、先ほどの段階的な先行実施ではありませんが、その中ではやはり中学校の英語教育というものも意識しながら少し書く作業というものもプログラミングしていく必要はあるのではないかなと、だから今も市のALTは、あるいは日本人の英会話指導助手は小学生対象に活動しておりますので、中学校の英語の授業を見たことがないということで今年度は3回は中学校のほうへ出向いて授業を見学させてもらって、その後反省することで自分たちが行っている外国語活動というものの足りなかった部分、やはりただ楽しいだけではない、ただ表現できたらいいだけではなくて次のステップに向けて何が足りないのかということは今検証している途中です。



◎教育長

書くことの、次の高校、大学へということでありましたけれども、その辺の反省をこめてどの程度の割合で小学校の5、6年であれ、これからの中学校3年間であれ、その割合が増えてくるんだろうというのは具体的にはどうですか。

○学校教育課長

具体的にはまだです。明らかに私たちの時代よりはそちらを重視しているのは間違いないと思います。コミュニケーションの一環としてですね。

◎木下委員

小学校が英語教科化になったときに今のままでは小学校各校1人の中核教員の専門性向上ということが謳われておりますが、宇和島市の小学校でとらえた場合に、先生の数が間に合うのか、不足するのか、どれくらい不足するのか、今の状態と比べると英語の指導力を持った先生が小学校には実際どのくらい不足してしまうのか。

○学校教育課長

具体的な数字を出すことはできませんが、イメージとして、全ての小学校が29校ありますが、その中で中学校の英語の1級、2級免許状を持っている者がどれくらいいるかなとしたときに2桁はいません。5、6人はいるが、まずはそれくらいのイメージです。義務教育の扱いとして中学校から小学校の免許状を持っている方が降りてくるということも今もありますし、軸足は面接の中でもどうしますかと聞いた時に、小学校も中学校も魅力あるのでそこら辺りの相互の交流というものはしていきたいと思っておりますということもあるし、また隣接している小中学校がもしできるのであれば、その中学校の英語の先生が小学校に来て小学校の授業を行うというのは認められておりますので、そういった活動もできるので小学校にその者が確実にいなくてもそういった活動でやりくりできるのかなと思っております。以上です。

◎教育長

この件よろしいですか。他にありませんか。

— 特に意見なし。 —

◎教育長

それでは次回の日程について。

— 協議のうえ、教育委員会1月定例会を1月13日に決定する。 —

(5)閉会宣言（午後4時44分）

◎教育長

それでは以上をもちまして、教育委員会12月定例会を閉会いたします。